

流産予防の中医弁証論治

高橋楊子・上海中医薬大学附属日本校

【流産】→妊娠 22 週（赤ちゃんがお母さんのお腹の外では生きていけない週数）より前に妊娠が終わることを指す。中には妊娠 12 週未満の初期の自然流産が 8 割以上を占める

（妊娠最初 3 カ月間の養生や予防は大事！）

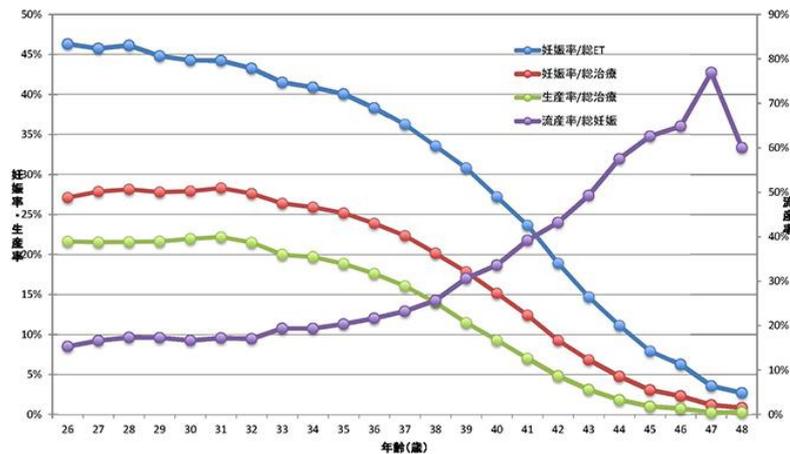
【反復流産】→流産の繰り返しが 2 回続いた。

【習慣流産】→流産を 3 回以上繰り返した。中医学では「滑胎」と称す。

【切迫流産】→胎児が子宮内に残っており流産の一步手前の状態を指す。中医学では「妊娠腹痛（胞阻）」「胎動不安」「胎漏」などと称す

* 各年齢層の ART 妊娠率・生産率・流産率（日本産科婦人科学会 ART データブック 2017 より抜粋）

ART妊娠率・生産率・流産率 2017



一. 流産の病因病機

気血虚弱→胎児失養

腎虚失蔵→衝任不固

陰虚血熱→迫血妄行

気血瘀阻→不通則痛

腹脹痛・腰部痠痛・胎漏・胎動不安という切迫流産→流産

* 転倒外傷は衝任を損傷して流産を起こす大きな原因となる

二. 流産予防の弁証論治

1. 気血虚弱・脾気下陷

症状：反復流産病歴、痩せ型、顔白無華、倦怠無力、妊娠初期に腹部墜重感、隠痛、少量不正出血（淡紅か淡い）、下痢軟便しやすい、めまい、立ちくらみ、つわり、食が細い、妊娠

前に月経量少、月経隠痛、淡歯痕舌、薄白苔、細弱脈。

治則：健脾昇陽・益氣補血

処方：泰山盤石散・補中益氣湯・歸脾湯・芎歸膠艾湯+当芍散

泰山盤石散：人參・黄耆・白朮・当歸・川窮・芍薬・熟地黄・続断・黄芩・縮砂・甘草・もち米。益氣健脾・養血安胎

補中益氣湯：黄耆・人參・白朮・陳皮・当歸・柴胡・升麻・甘草。補中益氣・昇陽拳陷

歸脾湯：黄耆・人參・茯苓・白朮・当歸・酸棗仁・竜眼肉・遠志・木香・甘草・生姜・大棗。

益氣補血・健脾養心

芎歸膠艾湯：当歸・熟地黄・川窮・芍薬・艾葉・阿膠・甘草。養血調經・止血安胎。“婦人有漏下者、有半産後因続下血都不絶者、有妊娠下血者、仮令妊娠腹中痛、為胞阻、膠艾湯主之”

当歸芍薬散：当歸・芍薬・川芎・白朮・茯苓・沢瀉。養血調經・健脾利湿 “婦人懐妊、腹中疔痛、当歸芍薬散主之”

* 出血+田七人參・仙鶴草・阿膠など

2. 腎虚失蔵

症状：反復流産病歴、妊娠初期に腰の墜重感、腰がだるくて痛い、少量不正出血（淡紅か淡い）、冷え症、耳鳴り、月経期間に腰部痠痛になりやすい、おりものが少ない、頻尿、夜間尿、むくみ、淡胖大歯痕舌、薄白苔、沈弱脈とくに尺無力。

治則：補腎温陽・固腎安胎

処方：寿胎丸・補腎固衝丸・八味地黄丸・紫河車+芎歸膠艾湯・当芍散

寿胎丸：菟糸子・桑寄生・続断・阿膠。補腎安胎。

補腎固衝丸（広東中医学院経験方）：菟糸子・続断・阿膠・鹿角霜・巴戟天・杜仲・枸杞子・当歸・熟地黄・党参・白朮・砂仁・大棗。補腎安胎・健脾養血。

八味地黄丸：附子・肉桂・熟地黄・山茱萸・山薬・澤瀉・牡丹皮・茯苓。温補腎陽

紫河車（胎盤エキス）：温腎益精・補氣養血

* 出血+田七人參・艾葉・芎歸膠艾湯・杜仲炭など

3. 陰虚血熱

症状：反復流産病歴、妊娠初期に腹痛、不正出血（鮮紅色）、のぼせほてり、苛立ち、顔紅、口苦心煩、妊娠前に月経周期が短く、経血量不定、月経色が鮮紅、不正出血をしやすい、尿黄便乾、紅舌少苔か黄苔、数弦滑脈。

治則：滋陰清熱・養血安胎

処方：二至丹・知柏地黄丸・保陰煎+加味逍遙散

二至丹：女貞子・早蓮草。平補肝腎・滋陰補血・止血

知柏地黄丸：熟地黄・山茱萸・山薬・澤瀉・牡丹皮・茯苓・知母・黄柏。滋陰降火

保陰煎：生地黃・熟地黃・黃芩・黃柏・白芍・續斷・山藥・甘草。滋陰清熱・養血安胎。

* 苛立ち、口苦心煩+加味逍遙散（柴胡・薄荷・白芍・當歸・白朮・茯苓・甘草・生姜・牡丹皮・山梔子）疏肝健脾・清熱涼血

* 出血+田七人參・旱蓮草・茅根・黃芩炭

4. 氣血瘀阻（「胞阻」ともいう）

症状：反復流産病歴、抗リン脂質抗体症候群病歴、妊娠初期に腹痛、少量出血、顔色や唇が紫っぽい、妊娠前に月経刺痛、色が黒っぽい、血塊が多い、腹部癥積、慢性肩凝り、慢性疼痛、冷え症か冷えのぼせ、紫暗舌瘀斑点、舌下静脈異常。

治則：活血化瘀

処方：桂枝茯苓丸・田七人參+當歸芍藥散

桂枝茯苓丸：桂枝・茯苓・牡丹皮・芍藥・桃仁。効能：活血化瘀・緩消癥積。“黃帝問曰、婦人重身、毒之何如。岐伯曰、有故無殞、亦無殞也。帝曰、願聞其故何謂也。岐伯曰、大積大聚、其可犯也。衰其太（大）半而止、過者死”『黃帝內經』

田七人參：化瘀止血・消腫止痛

●抗リン脂質抗体症候群は、自己免疫疾患の一つであり、血液が固まって血栓が起きやすいので、妊娠中の胎児への血液供給が悪化して不育証や流産や死産の原因となる。

【症例検討】 流産しやすい

患者：Sさん、女性、40代、主婦

初診：某年8月

主訴：流産しやすい

現経歴：2年前結婚してから、7週間ほどの稽留流産が二度あった。

望診：やや痩せ型、顔色が白くて艶が足りない、目の下に隈がある。

問診：疲れやすい、たまに立ちくらみ。冷え性。月経周期が長い（35日～47日）、月経初日に腰が重くだるい。経血量が少ない。おりものが少ない。胃腸には特別な異常はない。不安感がある。

舌診：淡紅嫩胖大舌、少し齒痕、深い裂紋、少苔剥苔

脈診：沈細弱、特に尺脈

弁証：

治則：

おすすめの処方：

流産予防の食事や生活面の注意点

1. 暴飲暴食・大酒・煙草・刺激強いもの・味が濃いものを避け、栄養バランスの良い食事をおすすめする。
2. つわりがひどい場合、何回にも分け少量で飲食を摂取することをおすすめする。
3. 重いものの持ち運び・自転車乗り・激しい運動・妊娠初期の性生活などを避け、流産歴がある人に最初3ヶ月間安静に過ごすことをおすすめする。
4. 過労・寝不足を避け、しっかり休息を取りながら規則正しい生活リズムを守る
5. 激しい音楽や怖い画像を避け、リラックスができる音楽を楽しんでください。
6. ストレスが溜まらないようにうまく発散する。